

(4) 後川中学校

学 校 長 岸本 教恵
校内研究代表者 福田 千恵

1. 研究主題

「自ら学び、自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成
～キャリア教育の視点で行う授業改善～」

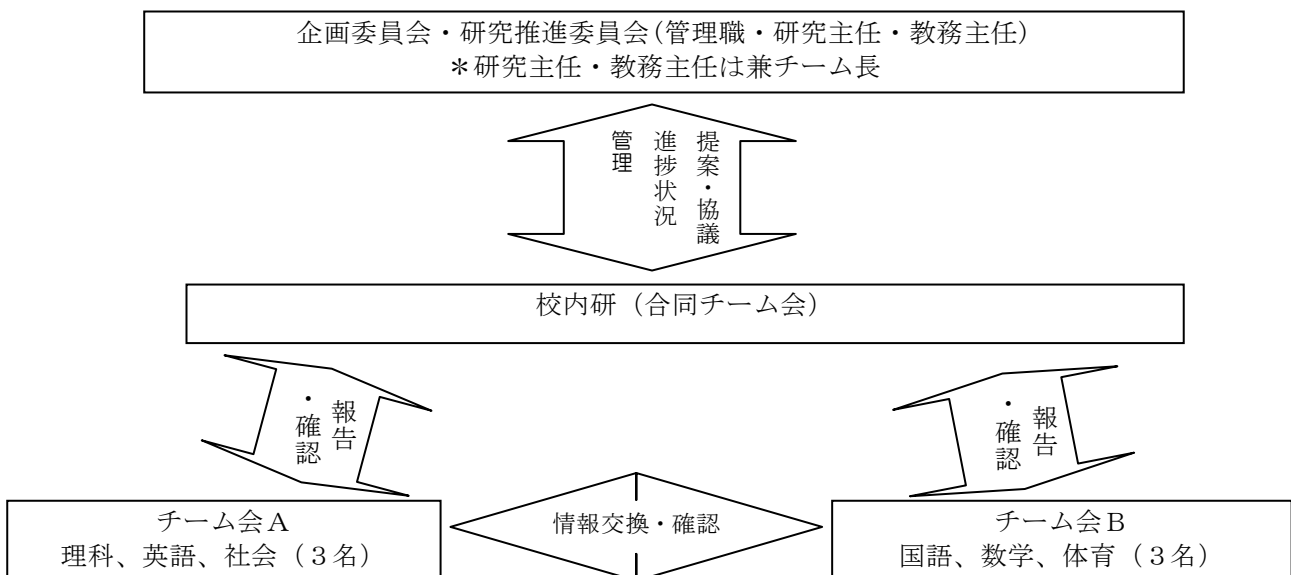
2. 研究主題設定の理由

本校の課題は「主体性」と「表現力」。良さは、学年を越えて仲が良く、見通しがもてることには一生懸命取り組もうとするまじめさ。昨年度は自尊感情が大きく向上し、どのような場面でも協働できる生徒集団に育っている。そこで、『見通しをもつ力』と『やりぬく力』を高めることで主体性を高めることを目指しサブタイトルを設定した。目標を明確にもち(目標設定)、どうすれば目標を達成できるかの見通しをもち(計画)、最後までねばり強くやり通す(実行)力をどの生徒にも付けていきたいと考える。小中合同でキャリア教育を柱として研究を推進することで、小中連携もさらに強まると期待される。

3. 研究の進め方と方法

- (1) 校内研修日を水曜日に定めて、年間計画に沿って研修をする。なお、第3週の水曜日は職員会とする。
- (2) 教材研究のため、自己研究の日を月に1回設定する。
- (3) 全校研究授業は1人1本とし、5教科は改善プランの授業公開と兼ねる。指導主事を招聘し、チーム会での指導案検討と模擬授業を経て、研究授業と協議において助言指導をいただき、全員が授業改善につなげられるようにする。

《 研究推進組織 》



4. 具体的取り組み

(1) 授業改善＝学力向上

- ① 研究授業 事前(指導案検討会⇒模擬授業)⇒事後(協議・各自の授業改善)
第1回 5/15(水) 3年国語「社会との関わりを伝えよう」

- 第2回 6/12(水) 3年社会「憲法が保障する基本的人権」
- 第3回 6/27(木) 1年数学「文字と式」
- 第4回 10/7(月) 3年理科「塩酸の電気分解」
- 第5回 11/18(月) 2年英語「If You Wish to See a Change」
- 第6回 12/11(水) 全校道徳「傘の下」 C(10) 順法精神・公德心

② 帯タイム・7時間目

- ・前年度までの7時間目(全学年合同で30分間の自主学タイム)を各学年単位での30分の後川タイムに変更。期末テスト週間は全学年が7時間目を設定。3年生は11月第3週から週に4日の7時間目の授業を実施。

③ 合同チーム会

- ・1学期の総括を受け、課題克服を目指す合同チーム会での意見交流を毎月実施。

④ その他

- ・専門部 前年度までの3つの専門部を「まな部」「こころ部」の2つに統合・再編成し、教員だけではなく、生徒にも学力向上とそれを支える仲間づくりや基本的生活習慣、環境整備について考えさせる。
- ・学習会 1月から3年生は生徒の要望により、朝25分間の数学学習会を実施。

(2) 仲間づくり

① 生徒会活動

- ・生徒会主催の全校レク(意見箱の活用)
- ・こころ部でのサプライズ

② 人権集会

- ・年2回の定例化。学級での話し合い⇒全校での発表、人権作文、SCによるエクササイズ

③ その他

- ・合同合宿
- ・総合的な学習の時間(学年ごとの郷土学習。ライトアップと霜月祭での発表。)

(3) 小中連携

① 合同校内研・参観週間

- ・年3回の小中合同校内研を実施し、夏にはオンデマンドを活用して全員でキャリア教育について研修した。研究授業の日程を共有し、中学校からは1人1回は小学校へ参観に行くようにした。秋の合同参観週間の交流も図った。

② 系統表・キャリアシートの活用

- ・「キャリアシート とさっ子! 夢・志シート」をもとに小中9年間で育てたいキャリアに関する能力を系統表にまとめ、小中の教員全員で協議した。小中ともにキャリアシートは年間計画に位置付けて活用するようにし、どのシートを次年度に引き継ぐかについても、大枠を話し合った。

5. 今年度の成果と課題

(1) 成果

① 評価指標での数値結果

- 全国学力・学習状況調査結果(平均正答率 全国比) 国語+6.2 数学+13.2 英語+3.0
- 高知県学力定着状況調査(自校採点結果 全国比)
- 1年生 数学+11.4 理科+16.9 英語+10.9 2年生 理科+12.1
- 学習状況アンケートの全項目平均 3.51
- 学校評価アンケートの土曜授業に係る項目の肯定評価 生徒・保護者 100%

②考察

- ・昨年度の授業改善での課題であった「対話的な授業」の改善を目指し、研究授業で毎回検証し、改善プランでの助言等も活かしながら、『生徒にまかせる授業』を追究した。また、授業だけではなく各行事においても振り返りの時間を確保し、生徒自身に書かせたり発表させたりしてきた。結果、学習状況アンケートにおいて、学んだことを次に活かそうとする「汎用性」が100%と年間を通して高く、「対話」も88.5%から100%に向上した。また、本校独自の項目である「家庭学習」の自主学習ノートの工夫についても、92.3%から100%に向上した。自主性・主体性の向上と考える。自尊感情、書く力も向上している。

(2) 課題

①評価指標での数値結果

○キャリア形成に関するアンケートの全項目平均 3.2

○高知県学力定着状況調査（自校採点結果 全国比）

1年生 国語－3.2 **2年生** 国語－3.6 社会－9.4 数学－6.1 英語－5.2

②考察

- ・キャリア形成に関しては場に応じた言葉遣いやルールを守る、基本的な生活習慣が弱い。学力に関しては読む能力、活用力に課題がある。
- ・単元ゴールシートを継続して活用し、掲示して共有するようにしたが、授業者任せになってしまった。効果や有益感には温度差がある。

6. 来年度に向けて

(1) 基礎・基本の徹底と知識・技能を活用する力、表現力の向上

- ・生徒に興味関心をもたせるための課題設定、付きたい力の検証や付けた力の活用を図る単元ゴールの明確化及び自分の考えを表現し、次の学びにつなげるための振り返りを位置付けた単元構想を充実させ、単元ゴールシートの活用を継続する。
- ・社会で通用する力を身に付けさせるため、利岡小・後川中キャリア教育系統表をもとに正しい言葉遣い・態度・構成等を意識させた発表力（表現力）を付ける。
- ・学校教育全体で効果的に生徒の学びがつながっていくよう、単元配列表を作成し、教科と教科、領域を越えて意識して取り組めるようにする。

(2) 効果的な家庭学習の取組

- ・授業⇒帯タイム（7時間目）⇒家庭学習のサイクル化の仕組みを全体で共有しながら、生徒にとって自ら学ぶ主体的な学習になるようにする。
- ・家庭学習の量の適正化を図り、より効果的な取組になるようにしていく。

(3) 小中連携

- ・キャリア教育系統表を軸に、それぞれの学校での取り組みの成果と課題を共有し、小規模ならではのきめ細かい見取りができる体制を整える。